

2022年12月25日 午前礼拝
「荒野の試練③」 説教者：堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 4:8~11

8. 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々と栄華を見せて、
9. 言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」
10. イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ』と書いてある。」
11. すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。

【説教要約】

これまで、2回に渡ってイエス様が悪魔から受けられた試みについて見てきました。この試みは、クリスチャンすべての上に起こるものです。今日見ていく、3回目の試みは特に、これまでの集大成のような試みです。

①一番大切なこと

マタイ 4:8,9

8. 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々と栄華を見せて、
9. 言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」

これまでの試練は、

- ①「食べなければ死ぬような空腹時に、「石をパンに変えて、必要を満たしたらどうか？」という誘惑
- ②「神の約束を利用して、奇跡によって有名になればいい」という誘惑

これらの誘惑の共通点は、「自分を満たすために、神を利用する」という点です。もっと言えば、「神様を自分に仕えさせようとする」ということです。しかしイエス様はそれらの誘惑に乗りませんでした。

なぜなら、イエス様は天の神様に絶対的な信頼を置いておられたからです。どんな状況に陥ったとしても、「天の父はわたしを愛しておられる」ということに土台を置いておられたのです。

この試みのまさに直前、神様はイエス様を祝福して言われました。

マタイ 3:17b, 「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

これは、イエス様と同じ道を行くクリスチャンすべてに対しても言われているのです。皆さんは、神が自分をこの上なく愛しておられると知っておられますか。神様との信頼関係こそが、あらゆる試練を乗り越える力です。

さて、今日見ていく3度目の試練も先の2つと同様、「神様を無視して自分を満たす」ことの誘惑でした。悪魔はイエス様に世界中の国と繁栄を見せて、「私を拝むならこれらを上げます」と誘惑します。「この世の支配者になることによって、救い主になればよいではないか」ということです。

イエス様がこの世界に来られた目的は、まさにこの点にありました。

マタイ 4 : 17b, 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

イエス様がこの世界に来られたのは、神の国を打ち立てるためでした。イエス様が王である国を造りに、この世界に来られたのです。悪魔は、「私を拝めば、今すぐに世界の支配者となって、神の王国を建てられますよ」と言っているのです。それは、イエス様の人生の目的を今すぐに叶えるということなのです。

この悪魔の誘惑こそ、今までの誘惑の集大成です。悪魔は人生の目的を盾に、自分を礼拝させようとしているからです。そしてこの誘惑こそ、人間が破れてきた試練の代表でもあります。

創世記 3 : 4~6

4. そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。
5. あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」
6. そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

神はアダムとエバに、「善悪の知識の木からだけは取って食べてはならない。食べるその時あなたは死ぬ」と命令をされました。しかし悪魔は真っ向から、「食べても死にません」と人を騙したのです。そして人は、神様が仰ったことに歯向かってでも、自分の欲望を満たすことを選んでしまったのです。この戦いが、以来今日まで続いています。

まさにイエス様は、人生の意味を問われたのです。悪魔に妥協さえすれば、人生の目的を今すぐに達成できる。人生の目的を達成する以上に大切なことが、この世の中にあるのでしょうか。多くの人にとって、生まれて来た意味、やがて終わりのある人生の意味は、自分で見出さなければなりません。その結果、人生の目的が今あると思います。

人生の目的を達成すること以上に大切なことがあるのかどうか。その答えはイエス様が教えてくれます。

②神のご計画と人間の計画

マタイ 4 : 10, 11

10. イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ』と書いてある。」
11. すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。

イエス様が悪魔に答えたことばは、「あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ」でした。悪魔を拝めば人生の目的が果たされるという誘いを拒絶したのです。これはイエス様のみことばであると同時に、申命記のみことばです。

申命記 6 : 10～14

10. あなたの神、主が、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地にあなただけを導き入れ、あなたが建てなかった、大きくて、すばらしい町々、
11. あなたが満たさなかった、すべての良い物が満ちた家々、あなたが掘らなかった掘り井戸、あなたが植えなかったぶどう畑とオリーブ畑、これらをあなたに与え、あなたが食べて、満ち足りるとき、
12. あなたは気をつけて、あなたをエジプトの地、奴隷の家から連れ出された主を忘れないようにしなさい。
13. あなたの神、主を恐れなければならない。主に仕えなければならない。御名によって誓わなければならない。
14. ほかの神々、あなたがたの回りにいる国々の民の神に従ってはならない。

これは、エジプトの奴隷だったイスラエルが神様によって救い出され、荒野を旅し、まさに今から 400 年前に神様が約束されたカナンの地に入っていく時に語られたみことばです。

ここで言われているのは、「あなたが建てなかった」「あなたが満たさなかった」「あなたが掘らなかった」「あなたが植えなかった」という「あなたが用意しなかったもの」が待っていること。また、「あなたの神、主が……導き入れ」「これらをあなたに与え、あなたが食べて、満ちたりる」という、神がそれを与えて下さるということです。

覚えておられますか。イスラエルはエジプトから脱出した後、食べ物も水もない荒野を旅することになりました。民は都度文句を言いましたが、神はそれを人間には思いもよらぬ方法で、パンを天から降らせ、水を岩から出して民を満たされました。この奇跡を見て、誰が「これは私たちの努力のわざだ」と言えるでしょうか。

同じように、これから約束の地に入る時でも、その地を与えるのも満たして下さるのも主であるということです。しかし、その道のりはおよそ人間が考えるような道のりではありませんでした。食べ物も水もない場所を通らなければならず、しかも神様はあえて 40 年もの間民を荒野に居させたのです。普通に旅をすれば、一か月もかからない道のりを、です。人間的には、かなりの遠回りにしか見えません。

ところが、この40年という期間が大事でした。なぜなら神様の目的は、単に民を幸せにすることではなく、「神が本当に必要なものをいつも下さる」ことを学ばせることだったからです。そして確かに神様は、神様の手によって約束の地を与えて幸せにして下さいました。

神様が与える幸福は、人の思い描く方法によらないのです。なぜなら、人の思う方法は人に栄光を帰してしまいます。「私がこのことを成した」とか「あの人はすごい」とか。人が輝いてしまいます。しかし神様の方法は、神様に栄光が帰されます。

イエス様は悪魔をここではっきりと退けますが、同じ言葉で退けられた人がいます。弟子のペテロです。

マタイ 16 : 21~23

21. その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。
22. するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」
23. しかし、イエスは振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

イエス様が使われた「サタン」は、悪魔の呼び名の一つですが、元々は「敵」という意味です。「神の敵」という意味です。イエス様は、ご自分の行く道が苦しみの道であると証されました。宗教家たちから苦しめられ、ついには殺されてしまう。しかし、3日後によみがえる。それが、神様の方法でした。

しかしペテロは「そんなことが、あなたに起こるはずがありません」とイエス様を注意するのです。そのペテロに対して、「下がれ、サタン」とまで言われます。なぜなら、ペテロがしたことは「神のことを思わないで、人のことを思っている」からでした。

ペテロがイエス様にかけて言葉は、心配とか同情といった、良い動機からでした。しかし、ペテロの心配は神様を抜きにした心配でした。それは人間にとっては良いことに思えても、神様のご計画にとっては邪魔をする言葉になってしまったのです。ペテロのしたことは、神に栄光を帰さず、人に栄光を帰することだったからです。

このことは、大きな落とし穴だと思えます。論理的に考えて良いことや、良心から何かをすることは良いことだと考えてしまいます。しかし、たとえ人間的に良いことに思えても、そこに神様への信頼がなければ、実は悪いことかもしれないのです。

悪魔もまた、人間的に見れば良いことを提案しているように見えるのです。今すぐに、傷つかずに、死なずに、王国を建てられる。最短で人生の目的を達成できるという誘惑です。しかしイエス様はそれをはっきりと退けられました。なぜなら、神様が取られる方法でなければ、何の意味もないからです。

神様が用意しておられたご計画は、実に 2 年半あるいは 3 年半かけて、人々と接し、反対を受け、憎まれ、傷つけられ、殺される道だったからです。人間的にはこんな道に行く道理はありません。しかしこの道でなければ、神様に栄光は帰されなかったのです。この道でなければ、神の愛が分かることはなかったのです。

神の愛とは、私のためにイエス様が来てくださり、私のために苦しみ、十字架につけられ、死んで、その後よみがえられたことです。もしイエス様が悪魔の提案通り、最短で苦しまずに王になっていたなら、私は神の愛を知ることはありませんでした。

人生の目的よりも大切なこと、それは神を愛し、神に信頼し従うことです。それは 1 か月の道のりを 40 年さまようことかもしれません。あるいは傷つかずに済んだ道を、傷つき、ののしられながら進むことかもしれません。神のご計画は人間から見ると無駄が多く、遠回りかもしれません。しかし神に信頼してその道を進むなら、必ず神の栄光が現わされます。

ヤコブ 4 : 13~15

13. 聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう」と言う人たち。
14. あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それから消えてしまう霧にすぎません。
15. むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」